

平成 22 年度 首都大学東京 システムデザイン学部 FD セミナー報告  
「大学教育を変える教育業績記録 –ティーチング・ポートフォリオ入門–」

システムデザイン学部 FD 部会委員長  
増田士朗

システムデザイン学部 FD 部会では、平成 22 年 12 月 16 日（木）13 時より、首都大学東京日野キャンパス 1 号館 会議室 1~3 にて、FD セミナー「大学教育を変える教育業績記録 –ティーチング・ポートフォリオ入門–」を開催しました。講師の先生には、早稲田大学 人間科学学術院 尾澤 重知 先生をお迎えしました。



セミナーは第 1 部の講演と第 2 部のワークショップの 2 部構成からなり、つぎのプログラムにしたがって進められました。

■ 第 1 部 講演 13:00-13:50

13:00-13:05 開会の挨拶 福地 一 システムデザイン学部・研究科長

13:05-13:50 大学教育を変える教育業績記録 –ティーチング・ポートフォリオ入門–

13:50-14:00 10 分休憩 (質問用紙の回収)

■ 第 2 部 ワークショップと質疑応答 14:00-15:00

14:00-14:45 ミニワークショップ –個人ワークを通して、自身の授業を振り返る–

14:45-15:00 質問回答・質疑応答、総合討論 (組織的な導入に向けて 等)

第 1 部の講演では、まず尾澤重知先生にティチングポートフォリオ (以下、TP と記す) について講演いただきました。

講演では、TPは自分を振り返るツールとして意義があること、またFD活動には、授業評価アンケート、各種講演会、eラーニング、ICTの活用などの様々なものがあるが、TPはそれらのFD活動を包括する活動と位置付けられるとの説明がありました。また、TPでは、「なぜ？」という問いを通した自身の振り返りが重視されること、また、その振り返りは、教育への携わりに関する主体的な意識の喚起や実感の回復に効果があること、さらに、意識化されたものを理念にまで押し上げることによって、形式知として教育理念や方法論を共有できることなどの説明がありました。このことからTPは教員個人の意識の向上だけでなく、組織としてもメリットが大きいことがわかります。これらの話の途中、「学生から先生はなぜ教員なのかと問われたことあるでしょうか？それに答えられるでしょうか？」などの問いかけが投げかけられました。この問いかけは大変効果的で、聴衆の集中度がこの問いかけによって一気に高まったような印象を受けました。その後、TP作成のためのワークショップの概要の紹介があり、メンター（TP作成経験者）によるメンタリング（助言）が有効であるとの説明がありました。さらに、良いTPの構成例として1) 教育の責任（何をやっているか）2) 理念（なぜやっているか）3) 方法（どのようにやっているか）4) 成果（どうであったか）5) 今後の目標（これからどうするか）からなるものがあるとの説明がありました。

第2部では、ワークショップによってTP作成の体験を行いました。ワークショップでは、ペアワークという方法が取られ、2人1組で実施され、つぎのような作業を行いました。



- 1) まず、日頃の教育活動について「いつも行っていること」、「心掛けて実行していること」、「大切だと考えて実践していること」をできるだけ多く挙げ、それぞれを付箋1枚に1つずつ書き、配布されたワークシートの所定の欄（A欄）に貼る。
- 2) つぎに、「なぜこのようなことをしているのか（理由）」を考えながら、理由が似ている付箋を「グループ分け」する。
- 3) 一番数が多い、自分にとって最も重要なグループについて、そのグループの上に、それらの理

由を考え、付箋に書いて貼る。

- 4) 二人でワークシートを交換し、ペアが整理した2番目の行動（グループ）の理由（理念）を自分なり（他人なり）に考え、付箋に記入して貼る。
- 5) 相手の最左のグループの個々の項目について、行動の根拠（直接的裏付け）を推測して所定の欄（B欄）に記入し、対応関係を矢印で示す。
- 6) 相手の最左のグループの行動によって学生にもたらされる「成果」（根拠）を考え、所定の欄（C欄）に貼る。
- 7) ここで用紙を隣に戻し、3分ずつ交代で自分の教育理念および理念を具現化している方法と共に相手に話す。

ワークショップでは、最初のうちは参加者も戸惑っている様子でしたが、ワークシートを交換するあたりから会場全体が打ち解け始め、最後に交代で自身の教育理念を語り合うところでは各ペアともに大変な盛り上がりでした。このワークショップにより、「理念」「目的と方法」「評価と成果」までを考えましたが、TP全体では更に、「改善活動」「研究との関連」「今後の目標」と続いていくとの説明がありました。また、組織的導入に向けたコメントとして、「TP作成経験者が一人いれば、仲間を増やすことが出来る」、「<http://www.teaching-portfolio-net.jp/> にアクセスすると最新情報が発信されている」などがありました。また、その後の質疑応答では、「ポートフォリオ自体をウェブ上で作りやすくする、又はエビデンスを蓄積・保持出来るシステムはあるのか？」などの質問ができました。これについては、尾澤先生から、「個人で興味ある人に使って頂けるシステムは作成されている。大学によっては予算を投じて環境整備しているところもある。」との回答がありました。



最後に、本セミナーにご参加いただきました上野 淳副学長・大学教育センター長 から「全学FDでもラーニングポートフォリオなどをやらねばと思っていた矢先であり、勉強になったし、楽しめた。」との御挨拶をいただき、セミナーを終了しました。

セミナー終了後、セミナーに関するアンケート調査を行いました。大変好評で自由記述欄では、「理念の重要性がわかった。」「ワークショップとして実際に体験してみると自分の問題としてとらえやすくなり、かつ、他人のケースと比較もできた。」「自己省察する機会になり、今一度、自分の講義・方法・内容について見直す気持ちが発生してよかった。」「学内でこの内容を聴講できて有益でした。」などの意見が書かれていました。

このように今回の FD セミナーは、講師の尾澤重知先生の魅力的な講演およびワークショップによって、盛会のうちに終わることができました。このセミナーによって TP および効果的な FD 活動に関する多くの知見が得られましたので、今後の活動にいかしていきたいと思えます。

最後に、ご多忙な中、興味深い講演をいただきました尾澤重知先生、尾澤先生を御紹介いただきました大学評価・学位授与機構、栗田佳代子先生に心よりお礼申し上げたいと思えます。